３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.515-516

３密に配慮して、定例活動再開しています

【定例活動報告】
草莽荘（そうもうそう）の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

第１日曜日の活動より

　梅雨の幕開けの好天の中、川田、丸茂、石井、宮村、仲田、小林6名集合。相模湖畔の「草莽荘」を見ていない丸茂氏と共に皆で行った。小屋への入り口の急坂の整備したところと神社から先の急坂を迂回する新ルートの整備状況の説明を行い、小屋の前で相模湖を望みつつ昼食を取った後、小原の花畑に向った。先日花畑用として大型のロッカーが設置されたところなので、作業道具をロッカーに入れる作業を行った。車道から近く軽トラに道具を積み込みするにベストな位置に設置されている。
　竹林からロッカーに行く作業道中に間伐材が散在し歩きづらく危険なので、

階段と橋を早速敷設することにした。さすが階段と橋づくりは手慣れたもので短時間に立派な作業道が出来上がった。花畑から相模湖を挟んで対岸の草莽荘及び長福寺知足の森を結ぶ大トライアングルは運命的な基地である。

第３日曜日の活動より

　本日は特別作業を予定するため、大木を処理できるプロを呼んだ。仁藤君、斎藤君、瀧澤君である。加え地主の岡本氏、石井氏、私で国道からの入り口すぐの急登と急カーブの拡張と山側の壁の補修が目的である。今日は久しぶりに石村前理事長が「草莽荘」を見に来られた。岡本氏がユンボ―をトラックに搭載してやってきて経路の拡張作業を始めた。伐倒予定の大木周辺を拡張してみると大木を伐倒せず収まるようだったので助かった。
　午後は仁藤君たちは学生の待つ長福寺へ、我々は残り、神社から先の急登を迂回する作業道の造作に入った。ユンボ―を先頭にどんどん進んでいく。その後の頭上に掛かる樹木や蔦などの処理を行った結果普通車が通えるような立派な道ができた。梅雨の雨も汗ダクの体には冷却水位にしか感じれれなかった。暑い夏が過ぎたころの9月に「草莽荘」のお披露目式を開催したいものだ。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

第３日曜日の活動より

　６月に入り、社会情勢も少しはよくなり、参加する中高生も増えてきました。第１日曜日は小林さんの報告にある通り、前半は作業道づくり、後半は竹林整備を行った。第３日曜日はさらに参加者が戻ってきて、中学生１名と高校生３名、大学生２名、と私と粟田さん。初参加の生徒の感想はニュースレター後半で紹介します。今回は知足の森の間伐を２本行いました。２本とも無事に倒すことができ、その間伐材を使って、作業道の補修を行いました。現在、活動地まではなんとなく、作業道のような獣道のようなルートで向かっていますが、その途中がけ側が崩れてしまって歩きづらくなっているところの補修などに使いました。あらかじめ長さを計りそれに合わせて玉切りをしましたが、逆に5mとか6mになってしまい、運ぶのが大変でしたが何とか歩きやすい道になりました。その後、川田さんたちから真竹が出始めている、とのことで思い思いの長さに切りお土産にしていました。先だけたべれるので「収穫」は簡単でした。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「ナツツバキ(*Stewartia pseudo-camellia*)とヒメシャラ(*S. monadelpha*)」

図1 ナツツバキ

20100625大雄山駅周辺

図2 ナツツバキ

20181013三頭山

図3 ヒメシャラ

20190625汐入公園

図4 ヒメシャラ

20191020汐入公園南千住

図5 ナツツバキの落花

20190626高崎

ナツツバキはツバキ科ナツツバキ属の落葉高木。樹高15m、直径50㎝以上に達するといいます。葉は互生、楕円形。福島・新潟以西の本州から九州、朝鮮半島に自生。6月頃に山を歩くと足元にツバキよりやや小振りの白い花が落ちているのに出くわすことがあります。見上げると新枝の葉腋に時には少し紅色がにじむ白い花がちらほら見えて、少しホッとするヒトトキです（図1）。ガク片花弁とも5枚で花糸の基部が花弁と合着するのでツバキのように花が一輪丸ごと落ちます。木肌は赤褐色の濃淡のまだら模様があり滑らかな印象を与えるのが特徴でサルスベリの異名があります（図2）。庭木として多用されます。園芸の分野ではシャラノキ（沙羅樹）といわれる場合が多いそうです。

同じナツツバキ属に、よく似たヒメシャラがあります。分布は箱根以西から九州屋久島まで。ナツツバキ（沙羅樹）より葉も花も全体に小振りなのでヒメシャラといいます（図3）。木肌は赤褐色で滑らかなのでこれにもサルスベリの異名があり、庭木に多用されて東京周辺でもよく見かけます（図4）。私は四国の山地で初めてみたヒメシャラの、幹の赤さが強く記憶に残っています。両者とも葉の葉脈が凹んでいて見分けるポイントです。

沙羅の名前は仏陀が涅槃に入った場所にあった沙羅双樹の名前に由来するのですが、沙羅双樹はフタバガキ科の*Shorea robusta*でインド北部の熱帯雨林帯に分布する常緑高木で日本には勿論中国にもありません。聖なる木として中国経由で伝わってきたものにこの木を充てた理由は分かりません。

平家物語の冒頭の「祇園精舎の・・・」にある沙羅双樹が、この花が一日咲いて翌日には花一つ丸ごと落ちる様が人の盛衰の儚さを表しているなど色んな解釈がありますが、実際には何の関係もないようです（図5）。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

活動再開
～山小屋への道の整備と知足の森へのアプローチ

3月以来の活動再開となりました。今回は新たに緑のダムが検討している山小屋を持つ場所への開拓作業の手伝いと後半は新フィールドとなる知足の森へのアプローチのため、作業道の見当をつけに行きました。

～山小屋への道の整備～

午前中は嵐山の裏側に当たるのでしょうか、新たに山小屋がある道への整備をするということで作業に加わりました。道の開拓と書きましたが、実際にはすでにコンクリートの私道があり、脇の土砂を広げて車が通れるようにするという内容です。地主さんのユンボが入り、その後ろから石や土砂をきれいにはいていきました。

上に行くと相模湖が一望できる高さにあり、そこには使われていない山小屋がありました。今後の展開次第では使わせていただけるかもしれないとのことです。整備できる平らなところもあり、竹林もありますので様々なアクティビティが考えられると感じました。もしバーベキューができれば、私たちForesTo Classが企画する森林整備体験→丸太トーチづくり→トーチを使ったバーベキューといった流れのイベントもできそうです。

～知足の森へのアプローチ～

午後からは知足の森へ向かうために小原方面へ移動を開始。今までの活動をおさらいをすると、道具のある倉庫から作業経路を伸ばし沢のふもとまで進め、2月に橋の補修を行いました。

今回は全容を明らかにするために山頂まで目指し、そこから整備できそうな場所を見通しながら、作業道を見当します。

途中お昼を台湾料理屋さんで済ませましたが、定食のご飯おかわりが自由なので案の定食べ過ぎとなりました…体が重たいまま山の急斜面に入ると足取りが重くなり、途中休み休み進みます。

他の二人のメンバーはプロの林業家なのでスイスイと進んでいきます。さすがだなと思いながら山頂を目指します。

本当に急斜面。這いつくばるように登っている感覚は、まるで本能寺の変の後に、徳川家康が京から伊賀越えをして落ち延びた時は「こんな感じなんだろうな」と想像してしまいました。

山頂まで行くと今までの急斜面が嘘のように歩きやすい頂が筋上に広がります。われわれは西側から降ることにして、小原の山と隣接するところから急斜面を通過していきます。

途中道をつけやすそうな谷筋をジグザグにおりましたが、どうやら別の地主さんのところということもあり確認が必要になりました。

次回は反対の東側を歩いていき、つけられそうな作業道を検討していきます。

滝澤　康至（ForesTo Class）

■ 林業プロの視点 ～二藤の眼～

ご無沙汰しております。

コロナで定例活動も自粛しており、なかなか掲載もできていませんでしたが、３ヶ月ぶりに定例活動をさせてもらいました。

今回は前回の続き『作業を100％成功させるためのポイント、パート2』です。

さて、前回はポイントとして『全ての作業をいつもより確実に丁寧に行う』と書きましたが、具

体的に何を丁寧に行うのかというとそれは『確認』です。

確認にも作業者が自分が作業してる中での作業１つ１つの『個人』としての確認と作業に関わるメンバー同士の作業の段取りについてや作業中の意思疎通など『全体』としての確認と２つあります。

当たり前で簡単な事じゃないかと思いますが、これがまた以外と出来ていない事が多く、自分の業界でもこの確認不足が事故の発生、作業のストップ、機械の故障などの大きな原因となっていたりします。面倒という気持ちや過信に省かれがちなこの確認作業ですが、失敗できない時こそこのひと手間かけるこのちょっとした意識と作業がとても大事な要因になってくるのです。

簡単ではありますが、今回は失敗できないこそ『確認』するという事をいつも以上に大切にすると述べてきました。

ボランティア活動だと特に作業するメンバーで慣れてる人だったり、年齢差や体力差だったりと経験に大きな差があるのが特徴だと思うので、何かとバラバラになる事が多いと思います。

だからこそ自分も含めて、当たり前を当たり前と思わず、意思疎通を大切に作業や活動をしていけたらなと感じています。

二藤　政毅（ForesTo Class）

【若者の森づくり】地球環境部

今月は、第１、第３の定例活動に参加した生徒の感想をご紹介します。

お花畑班の活動に参加して

私は四月から毎月第一週にお花畑の整備を行っている。五月は緊急事態宣言の影響で活動することができず、今回が実質二回目の活動だった。四月の活動ではお花畑の入口にチップを撒くことしか出来なかったため、今回はより充実した活動をしようと意気込んで向かった。

当日は入口の荒れた地に作業道を整備し階段を設置すること、竹を間伐すること、新たに設置された備品ロッカーを整理することの三つを行い、その中でも荒地に作業道を整備し、階段を設置したことがとても印象に残り学びが多かった。

初めは私の膝丈ほどある草が生い茂り、ここに作業道ができる想像が全くできなかった。そんな土地に刃物や機械を使って草を刈っていくとさっきまで荒れていたのが嘘のように綺麗な土地になった。そして間伐材の丸太を使用して地面に打ち付け、階段を設置すると、遊歩道のように整備された作業道が出来上がった。

森に初めて来てからもう三年ほど経つが、来るたびに何かしらの成功体験を森では味わえる。過去の活動では自分の身長の何倍もの木を切れたり、今回だと何もない土地に自分の手で道を作ることができた。これらは東京で普通に生活していたら絶対体験できないからこそ、やりがいがあり、何度も通いたくなる。

お花畑の整備はまだまだ始まったばかりだが、もっと回数を重ねて綺麗な土地にしたいと改めて思う活動だった。

仲田　未希（錦城高等学校２年）

初めて活動に参加して

今日の行ったものは自分の人生で、初めての経験がとても多くてすごく楽しかったです。私が自然と触れ合った事があるのは、家族での登山や学校での登山くらいでした。そしてその登山も高尾山など階段があったり、売店があったりなど舗装されている山しか見たことがありませんでした。今回は階段も無く、足もふらつき沢山転んでしましたが、その他の手入れが全く行われていない山はどうなっているのかと考えるともう想像さえできません。そして今回とても思ったのが音や匂いが私たちが住んでいる区や市とは全く違うのだなということです。都会の匂いは食べ物の匂い、コンクリートの匂い、車のガソリンの匂い、そして音は工事の音、テレビの音、選挙の時の演説など騒音ばかり耳に入ってきます。ときには無臭無音のときもありますが、森林の場合聞こえてくるのは、鳥の鳴き声、木が風に靡いている音など、とても心が透き通るような音や木のほのかな匂いがやってきます。静かなときはあまりなかったですが、街の騒音のように不快感を感じる音や匂いは一切ありませんでした。作業中は「できることならここに何時間と昼寝をしてみたいな」と今まで感じたことはなかったけれど、何か懐かしいものを感じました。森林と私達人間が住んでいるところはまるで別次元のようです。しかしこの感想文を書いている今も私の手には木の匂いがしています。何か変な感じです。

作業のときは先輩方にとても優しくしてもらいとても助かりました。鋸も「小学５年生の図工の

時間に少し使ったかな？」というくらいで鋸の引き方から伐採する時の刃を入れる角度など、沢山のことを細部まで教えてくれてとても助かりました。私にはまだ感覚のようなものは一切なくどの木を切ればいいのか、などは分かりませんが、木にこのくらい刃を入れれば倒れる、この方向に切れば…など皆さんが沢山考えて話し合っていてその姿はとてもかっこよかったです。伐採を沢山切ってきた経験があるからからこそなんだろうなと感じました。そして森の中でも「マーフィーの法則は起こってしまうのだな。」と思いました。しかし、皆さんはそこからの対処がとても早く、私はもう足手まといでしか無かったような気がします。力のない私でも「もう少しなにかちょっとした手伝いでもできたのではないか」と反省しています。そして帰ってきて振り返ると気づかないうちに足や腕には転んだ痣や枝などのかすり傷がありそういうところの注意が足りなかったとも感じています。しかしそれを逆手に取れば自分が少しだけでも自然に対して貢献ができたのかなと思うと、とても達成感を感じています。

鈴木　杏

（東京学芸大附属小金井中学校１年）

【事務局より】

本年度、国土緑化推進機構、緑の募金に引き続き採択されました。ご支援ありがとうございます。ご期待に添えるよう活動していきたいと思います

また神奈川県のご支援で今年も夏の体験学校を企画しています。相模原市内在住在学の小学四から６年生を対象にしております。近日中に募集チラシを市内小学校に配布予定です。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内

発行人：NPO緑のダム北相模

支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン